

学生ページ

医学部学生のメディカルホームステイ報告

夏期のメディカルホームステイは、各施設のご協力により下記のとおり実施され、今年度は2施設において2名の学生が研修した。この企画は、本学卒業生および北辰同窓会の支援のもと夏季休暇期間を利用し、医療現場で活躍する本学卒業生との交流を深め、人間性豊かな良医となるべく資質を向上させ、また、医療現場での研修・見学を通して、さらに積極的な学習意欲を向上させることを目的として、平成10年度から実施されている。

(教学課)

研修先	期間	研修者(医学部学生)
横浜相原病院	8/8～8/10	藤井 愛(第3学年)
中国労災病院	8/9～8/11	西田功一(第4学年)

〈研修先〉

医療法人社団哺育会 **横浜相原病院**院長 **吉田勝明先生** (昭和57年卒業)

〒946-0026 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南2-3-12

TEL 045-362-7111 FAX 045-362-7306

研修期間：平成23年8月8日～10日

ふじい あい
藤井 愛 (医学部第3学年)

吉田院長と筆者

私は今夏、本学を卒業された吉田勝明先生の下、横浜相原病院で内科・精神科を中心に学びました。吉田院長の「最新医療を駆使用する名医になるには時間と努力が必要だが、良医は患者を想う“こころ”でなれる」という言葉が印象に残っています。実際、横浜相原病院は“愛し愛される心を持った良病院”をモットーに、徹底された医療従事者間の挨拶、患者さんのプライバシーに配慮された施設体系が実践されていました。

主な実習内容は院長外来と回診の見学、精神ケアの参加でした。診察の際の医師と患者さんとの信頼関係が医療の質に直結するのは言うまでもありません。そのため工夫として、誕生日が近いか誕生日を迎えた患者さんのカルテには付箋が付いており、医療者が患者さんに「おめでとう」と声をかけていました。何歳になっても祝ってもらおうというのはうれしいもので、このような温かい気持ちが患者さんのところに届き、より良い医療が提供できるのだと院長はおっしゃっていました。こういった配慮は精神科特有の心配りかもしれません。患者さんとの距離感や会話を大

切にした握手と声かけは、「あなたのそばにいるよ」という医師からのメッセージになり、患者さんに安心感を与えているようでした。

また精神ケアでは、社会復帰をめざす方々が創作活動を通して積極的に他者とかわり、活発に自分にできることをなさっていました。精神科は作業療法や薬物療法が深く関わっており、コメディカルスタッフとの連携を学ぶプログラムを受けることができ、“チーム医療”を肌で感じることができました。

患者さんの心理状態が変動しやすい分野であるにも関わらず、幅広い年齢層を受け持つ臨床の場を私の研修のために提供していただき本当に感謝しております。今回の貴重な経験は、吉田院長はじめ横浜相原病院の方々や患者さんのおかげです。大学では臨床の勉強が始まったばかりですが、日々学び、本学の建学の精神である「良医」を目指したいと思います。本当にありがとうございました。